

リハビリテーション医学の実際 <改訂第2版>

——身体障害者と老人の治療技術——

G.G. Hirschberg 他 著／三好正堂 訳

横浜市立大学医学部リハビリテーション科

佐 鹿 博 信

リハビリテーション医学の教科書として有名な Hirschberg 博士の“Rehabilitation: A Manual for the Care of the Disabled and Elderly”が、三好正堂博士により翻訳された。

本書は、もともと、医学生・リハビリテーション医学を専攻していない医師・看護婦・セラピストなどのために書かれたものである。それにもかかわらず、本書は私のようなリハビリテーション医学を専攻する医師にとっても、日常の医療活動を遂行するうえで大きな確信と希望を与えてくれる。それは、障害者から学ぶという謙虚な姿勢と、リハビリテーション全般に関する幅広い知識が本書の基調であり、博士自らが試行し効果的で実際的であると確認でき

た技術・方法・治療に限定して述べられているためであろう。

本書は第2版であるが4部18章から成っている。第1部は総論であり、リハビリテーションの定義、身体障害者の管理の基本、経済的・社会的・情緒的影響について述べている。第2部は日常生活動作であるが、特に、移乗・移動能力とコミュニケーションを重視している。第3部は第1版にはなかった項であり、リハビリテーション組織について述べられている。第4部は各論であり、片麻痺・脊髄損傷などの神経疾患、筋や骨の疾患、呼吸器疾患、心疾患について記載している。とくに、片麻痺、脊髄損傷、腰痛、呼吸器疾患については、機能訓練プログ

ラムや、治療器具の使用法などが実際の臨床場面ですぐに応用できるほど実に詳細で簡潔に述べられている。

さて、訳者の三好正堂博士の多大な御努力により、本書は極めて正確な日本語訳で、しかも読み易くわかり易い本となった。誰にでも理解できる内容という Hirschberg 博士の意図が十分に生かされている。

本書は、リハビリテーションの意義・理念・目的などを統一し、チームワークを発展させるための良き教科書であり、多くの職種で熟読されることを切望する。

(A 5、552頁、¥ 7,000. 日本アビリティーズ協会 刊)